

# 千早赤阪村埋蔵文化財発掘調査概要Ⅰ

1993. 3

千早赤阪村教育委員会

## はしがき

千早赤阪村は大阪府の東南部、金剛・葛城山麓に位置します。本村は南北朝時代に合戦の場所となり国指定史跡 千早城・楠木城・赤阪城をはじめ中世の遺跡が多く所在しています。

本冊では本年度の国庫補助金事業として行った2件の調査についての成果を報告します。

調査の実施にあたっては、土地所有者をはじめ多くの方々のご理解・ご協力いただきお礼申し上げます。

今後とも本村の文化財行政にご理解・協力いただくようお願い致します。

平成5年3月

千早赤阪村教育委員会

教育長 鎌谷勇三郎

## 例　　言

1. 本書は、千早赤阪村教育委員会が平成4年度に国庫補助事業として計画し、指導課社会教育係が実施した千早赤阪村内遺跡群緊急発掘調査概要報告書である。
2. 調査は、本村教育委員会指導課社会教育係主事 西山昌孝、非常勤職員 仲村克身を担当者として実施し、平成4年4月1日に着手し、平成5年3月31日に終了した。
3. 調査の実施にあたっては、脇條 一氏、大阪府教育委員会の協力を得た。
4. 調査に参加した者は下記のとおりである。  
岩崎和彦、池島美幸、泉 乃理子、大森和利、小原昭雄  
三谷通夫、野村利夫
5. 本書の執筆は西山、編集は西山・岩崎が行った。
6. 調査にあたっては、写真・実測図等の記録を作成すると共に、カラースライドを作成した。広く利用されることを希望する。

# 目 次

はしがき 千早赤阪村教育委員会教育長 鎌谷勇三郎

例言

目次

I 調査の概要.....	1
II 誕生地遺跡の調査.....	3
III 川野辺遺跡の調査.....	8

# 挿 図 目 次

第1図 周辺遺跡分布図.....	2
第2図 試掘トレンチ位置図.....	4
第3図 B・Cトレンチ平面図・断面図.....	5
第4図 基本層序柱状図.....	5
第5図 出土遺物（1）.....	6
第6図 出土遺物（2）.....	7
第7図 川野辺遺跡位置図.....	9
第8図 トレンチ平面図・断面図.....	10
第9図 出土遺物（3）.....	10

## 図 版 目 次

- 図版 1 誕生地遺跡（1）
- 図版 2 誕生地遺跡（2）
- 図版 3 誕生地遺跡（3）
- 図版 4 川野辺遺跡 92-2 区
- 図版 5 出土遺物（1）
- 図版 6 出土遺物（2）

# 千早赤阪村埋蔵文化財発掘調査概要 I

## I 調査の概要

本村において周知の埋蔵文化財包蔵地（いわゆる遺跡）における土木工事等に伴って平成5年2月末日までに提出された文化財保護法第57条の2及び3の発掘調査の届出・通知は3件であった。

周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲内で行われる土木工事等については、届出・通知が必要である。本年度の届出・通知の内訳は公共事業に係るもの1件、個人住宅に係るもの1件、民間事業に係るもの1件であった。

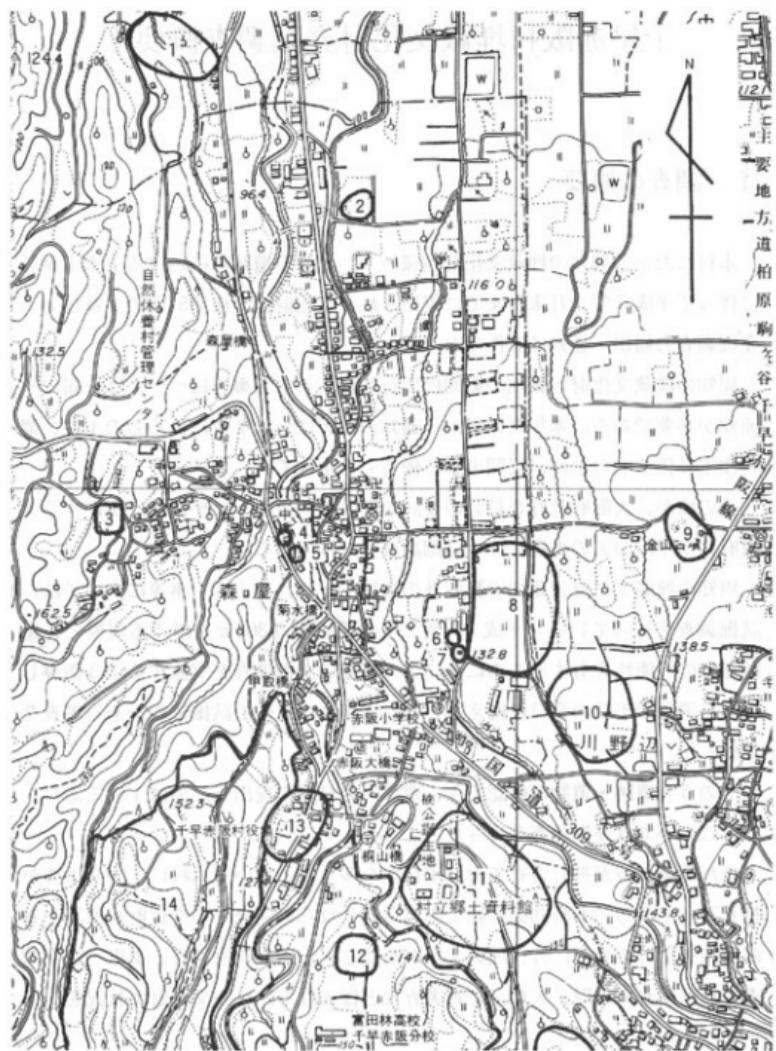
そのほか、大阪府教育委員会の委託を受けて国史跡 千早城跡に所在する大阪府立千早山の家の再建に伴う試掘調査を行っている。

周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲外の地域で行われる土木工事等については、試掘調査を行っている。平成3年度から開発面積が300m<sup>2</sup>を越える規模で、遺跡存在の可能性を有するものについて、事前に試掘調査を実施するよう指導しており遺跡の不時の発見に備えている。本年度は2件の試掘依頼があり調査を実施した。

そのうち遺跡・遺物が確認でき、遺跡の発見届を提出したのは1件であり、これについては発掘調査を行った。

まだ開発の波が押し寄せておらず自然を多く残している本村に、開発の波が押し寄せて来るのも時間の問題であろう。これらの開発から文化財を保護し適確な指導を行うためには、埋蔵文化財をはじめ石造文化財調査、美術工芸品調査、民家調査文化財、天然記念物調査など様々な方向から文化財の状況を把握することが必要である。

本村では単独事業として民家・美術工芸品調査に統いて3ヵ年計画で遺跡分布調査、石造文化財調査を行っている。



1. 神山丑神遺跡 2. 大森塚 3. 石造五輪塔 寄手塚・身方塚 4. 森屋1号墳 5. 森屋2号墳 6. 御旅所北古墳 7. 御旅所古墳 8. 御旅所遺跡 9. 国史 金山古墳 10. 川野辺遺跡 11. 涼生地遺跡 12. 桐山遺跡 13. 遺物散布地 14. 国史 赤坂城（下赤坂城）

第1図 周辺遺跡分布図

## II 誕生地遺跡の調査

誕生地遺跡は、金剛・葛城山脈の西側、水越川と千早川が合流する付近に所在する遺跡である。周辺遺跡には国史跡 楠木城（上赤坂城）・赤阪城（下赤坂城）、桐山遺跡（建武中興以降楠木邸跡）などがある。

誕生地遺跡では昭和45年度の村立プール建設の際に、土師器皿などが出土している。平成3年にはくすのきホール建設に伴い試掘調査を行った結果、くすのきホール・公園整備予定地全面に遺構の存在が確認された。試掘の結果に基づき発掘調査を行った。平成3年度の調査では、一部が二重の濠で囲まれた中世の城館を検出している。

### 1. 試掘調査

事業計画に基づき4ヵ所の試掘トレンチを設定した。

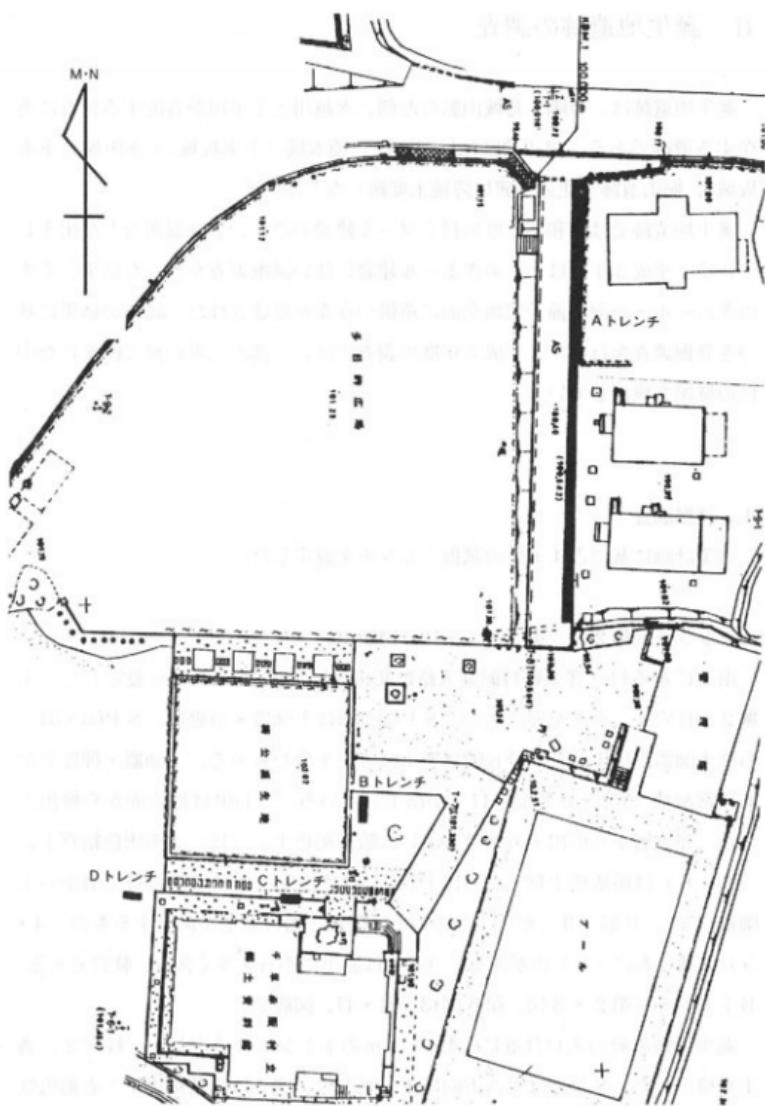
#### Aトレンチ（第2図、第5図1～12、図版1）

南北に走る村立郷土資料館進入路に40m×1.5mのトレンチを設定した。土壙2、柱穴4、溝1を検出した。S P02からは土師器・須恵器、S P03・04からは土師器が出土した。S K02は埋土に焼土を含むもので、土師器・押捺文がある常滑焼（10）・鉄製品（11）が出土している。S D01は地山面から検出された。包含層からの出土遺物は（1）は暗茶褐色土、（12）は明灰色粘質土、（2～6）は暗灰色土粘土から出土した。また、トレンチ北端の最下層から土師器（8）、瓦器（9）が出土している。製塙土器は器壁が肉厚するもの（4・5）と薄いもの（6）がある。（6）は胎土に小石を多く含み、軟質である。

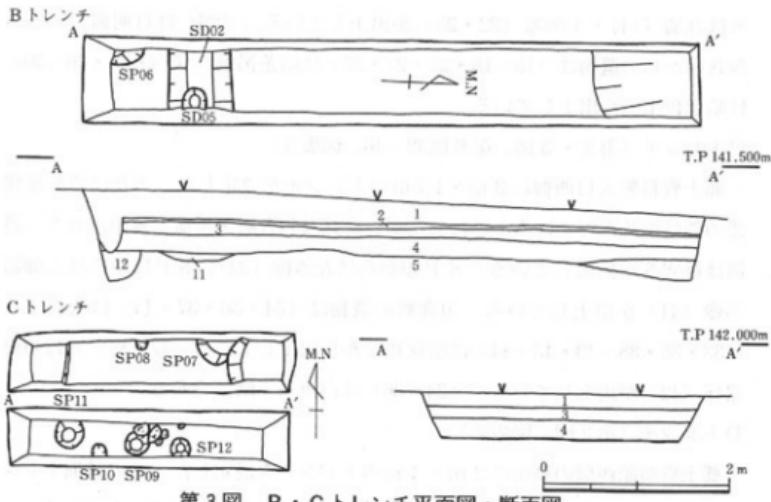
#### Bトレンチ（第2・3図、第6図13～31・47、図版2）

誕生地顕彰碑の入口付近に6.5m×1mのトレンチを設定した。柱穴2、溝1を検出した。S D02は東西方向に走っており、埋土は暗茶褐色土と赤褐色焼土の混合層で、上からS P05が切りあっている。

遺物はほとんどが中世のものである。S P06からは瓦器碗（13）、S D02か

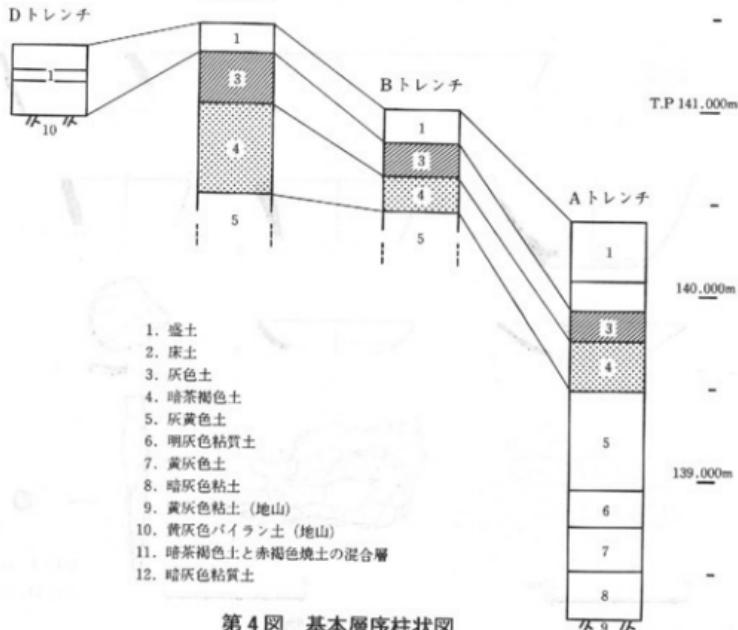


第2図 試掘トレンチ位置図



第3図 B・C トレンチ平面図・断面図

C トレンチ



第4図 基本層序柱状図

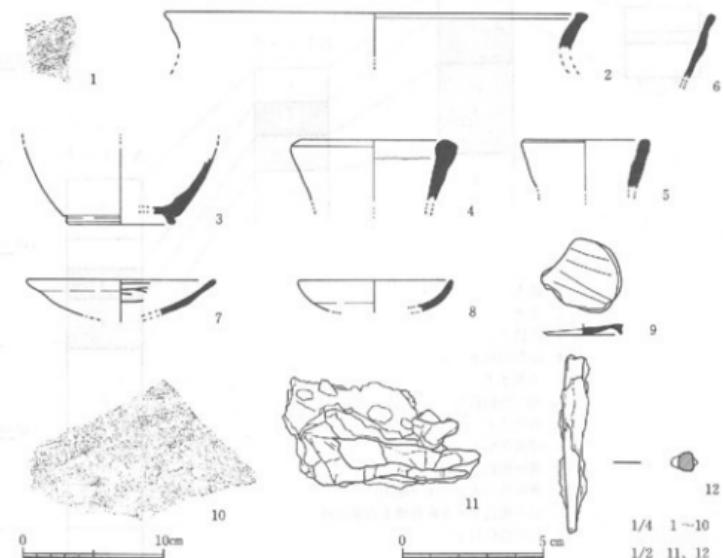
らは瓦器（14）・土師器（22・23）が出土している。（23）は灯明皿である。包含層からの遺物は（15～18・21・24・25）は暗茶褐色、（19・20・26～30）は暗灰色土から出土している。

#### C トレンチ（第2・3図、第6図32～46、図版3）

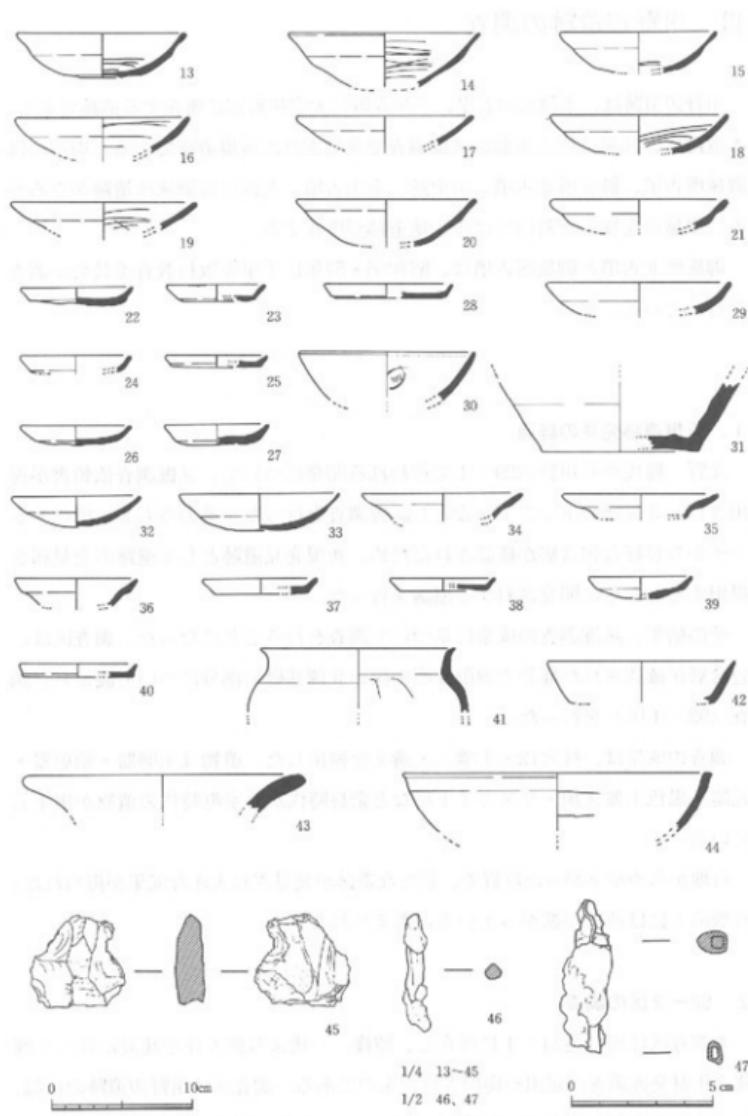
郷土資料館入口西側に3m×1.5mのトレンチを設定した。当初は資料館建設の際に搅乱されていると思われたが、良好な包含層・遺構が検出された。遺構は柱穴5を検出している。S P09からは瓦器甌（32）、S P11からは土師器の壺（41）が出土している。包含層の遺物は（34・36・37・44）は灰色土、（33・35・38～40・43・44）は暗灰色土から出土している。最下層からは須恵器杯（42）が出土している。（34～36）は白色系土師器である。

#### D トレンチ（第2図、図版3）

郷土資料館西側の築山に2m×1mのトレンチを設定した。この試掘トレンチからは遺物、遺構は検出されなかった。地山は灰黄色バイラン土である。



第5図 出土遺物（1）



第6図 出土遺物（2）

### III 川野辺遺跡の調査

川野辺遺跡は、水越川の右岸、千早赤阪村大字川野辺に所在する遺跡である。本遺跡は、開発に伴う事前の試掘調査で発見された新規遺跡である。周辺には御旅所古墳、御旅所北古墳、国史跡 金山古墳、北西には御旅所遺跡がひろがる。水越川を挟んだ対岸には誕生地遺跡が所在する。

御旅所北古墳と御旅所古墳は、昭和56・57年に千早赤阪村教育委員会が調査を行っている。

#### 1. 新規遺跡発見の経過

北野 勝氏から川野辺29-1で行われる開発について、試掘調査依頼書が提出され、3ヶ所のトレンチを設定し試掘調査を行った。そのうち2ヶ所のトレンチから良好な包含層が確認されたため、新規発見遺跡として遺跡の発見届を提出するとともに開発に対する協議を行った。

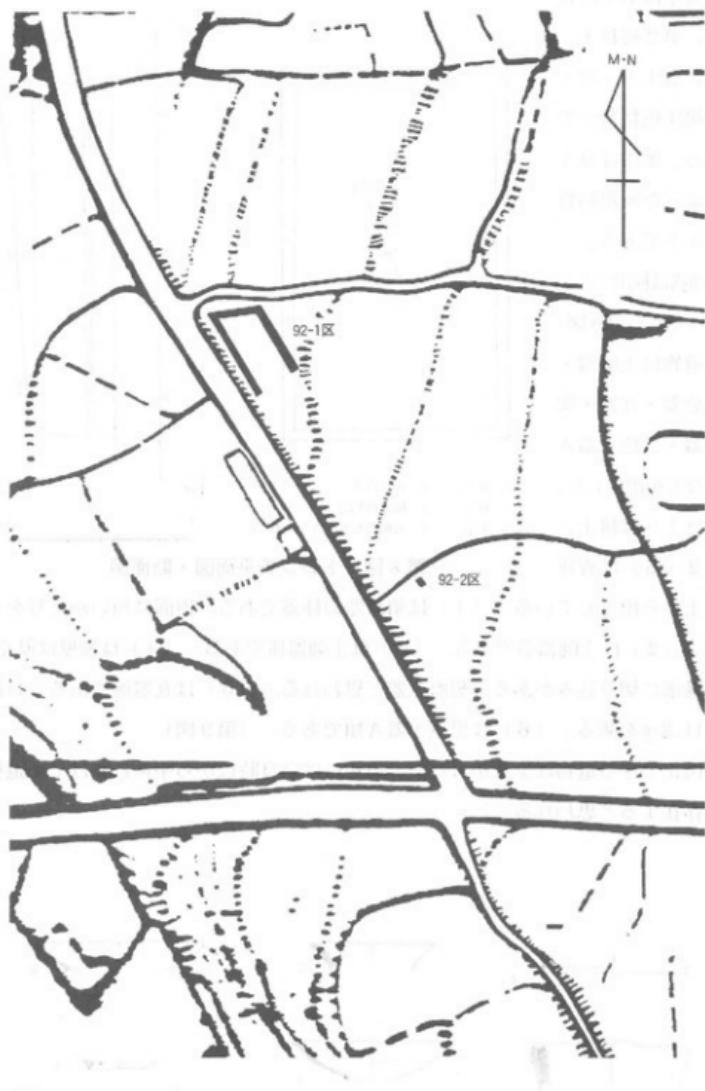
その結果、試掘調査の成果に基づいて調査を行うことになった。調査区は、包含層が確認された部分で掘削深度の深い北側基礎の部分について設定し、調査(92-1区)を行った。

調査の成果は、柱穴12・土壙1・溝2を検出した。遺物は土師器・須恵器・瓦器・黒色土器A類・サヌカイト片など奈良時代から室町時代の遺物が出土している。

台地からやや下がった位置で、新たな遺跡が発見され大きな成果が得られた。台地の上には遺跡が拡がっていると考えられる。

#### 2. 92-2区の調査

本調査区は川野辺24-1に所在し、脇條 一氏より個人住宅建設に伴って埋蔵文化財発掘調査の届出が提出されたものである。調査区は川野辺遺跡の南端、92-1区の南側で、台地下に位置する。工事の掘削深度は浅いことから、浄化槽予定地に1.25×2mの調査区を設定し調査を行った。



第7図 川野辺遺跡位置図

層序は第1層表  
土、第2層耕土、  
第3層床土、第4  
層褐灰色粘質土で  
ある。地山は良く  
しまった灰褐粘質  
シルトである。

遺構は検出できな  
かった。(第8図)

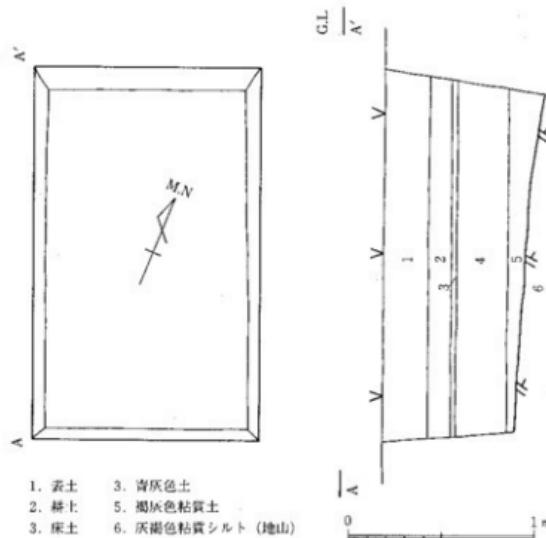
遺物は土師器・  
須恵器・瓦器・陶  
磁器・黒色土器A  
類などが出土した。

(1)は耕土、

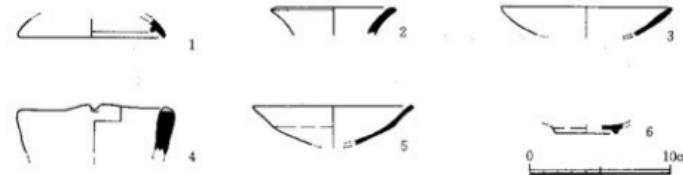
(2~6)は青灰

色土から出土している。(1)は須恵器の杯蓋である。内面に短いかえりをもつ。(2)は土師器壺である。(3)は土師器皿である。(4)は器壁は厚く、口縁部に切り込みがある。製塙土器と思われる。(5)は瓦器椀である。口径は11.2cmを測る。(6)は黒色土器A類である。(第9図)

図化できる遺物は少なかったが、周辺には奈良時代から中世にかけての遺構  
が存在すると思われる。



第8図 トレンチ平面図・断面図



第9図 出土遺物 (3)

## IV まとめ

今年度の調査からは、新規発見の川野辺遺跡の拡がりが確認され、誕生地周辺は遺跡の存在が確認されるなど大きな成果が得られた。

川野辺遺跡から出土する遺物は奈良時代から中世にかけてのものであり、台地上には遺跡が拡がっていると考えられる。

誕生地遺跡から出土する遺物も奈良時代から中世にかけての遺物がほとんどであり、その時代の遺跡が中心に拡がっているのであろう。今回試掘した結果から村道から郷土資料館の間が谷状になっていることがわかった。また、Aトレンチ最下層から瓦器椀などが出土することから中世の間に谷が埋まったと考えられる。

これらの遺跡と村内に多く所在する山城とあわせて考えると、生活地・館と山城がセットで調査することができる好事例となるであろう。

# 図版



A トレンチ



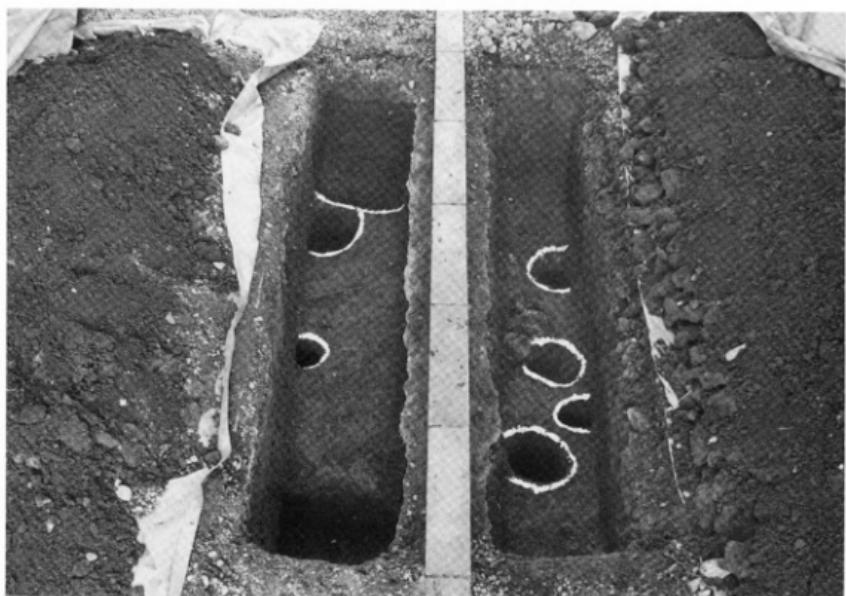
A トレンチ



B トレンチ



S D 02・S P 05 遺構検出状況



C トレンチ



D トレンチ



遠 景

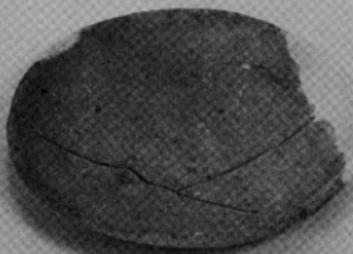


トレンチ



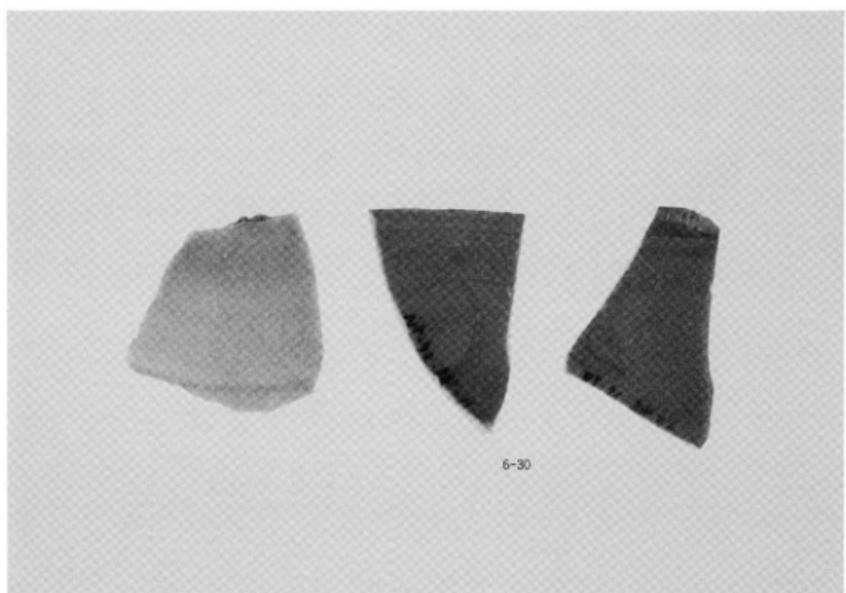
6-22

B トレンチ SD02



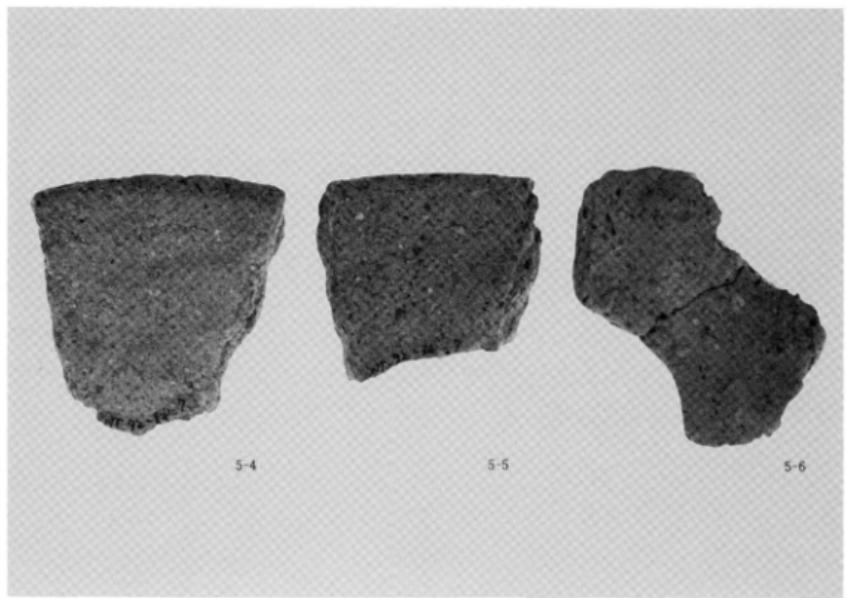
6-26

B トレンチ 暗灰色土



6-30

青磁



5-4

5-5

5-6

製塙土器

